

(仮称) ばんだい認定こども園整備基本計画

磐梯町教育委員会

令和6年9月

## 目次

1 基本計画策定の背景と目的	2
1-1 社会的ニーズの変化と磐梯町が目指すこと	
1-2 計画策定までの流れ	
2 前提条件の整理	3
2-1 磐梯町保育所・磐梯幼稚園・磐梯こども館・磐梯児童館の施設の現状	
2-2 保護者・町民・職員の意見	
3 整備基本方針と概要	1 1
3-1 建築計画・施設計画における基本方針	
3-2 計画敷地について（磐梯幼稚園の敷地での整備）	
3-3 予定施設概要	
4 整備内容と基本計画図	1 3
4-1 整備内容	
4-2 参考配置図	
5 施設整備計画（案）	1 6
6 参考資料	1 7

## 1 基本計画策定の背景と目的

磐梯町では、令和4年12月「磐梯町教育・保育施設再編整備基本構想策定会議」から答申を受け、それをもとに「磐梯の教育再デザイン構想委員会」が設定され令和6年2月に答申が出され、「磐梯の教育」0-15教育基本構想を策定する準備をおこなっています（令和6年8月現在）。磐梯町の0才から5才の保育環境については、現在は0才から2才が保育所、3才から5才が幼稚園と、通う施設が年齢で区切られており、3才から5才で保護者が就労している児童については、降園後こども館に通えるようになっています。施設が3つに分かれていることは子どもの成長の連続性にとっては関わる大人の連携が取りづらくなる1つの原因にもなっており、保護者にとっても、お迎えが複数箇所になったり環境の変化への対応も求められたりなど、人口が減り子どもの出生率の減少が進む現在には合わない環境となっていると判断せざるを得なくなりました。そこで、0才から5才が同じ場所で過ごすことのできる幼保連携型認定こども園の開設を目指していくことになりました。

「多様性と包摂性があたりまえにある世界を大人と子どもでつくる」という0才から15才の教育基本構想における基本理念のもとに、認定こども園の整備と基本方針等を定めるため、本計画を策定します。

本計画は、磐梯町保育所と磐梯幼稚園を統合し新たな認定こども園を整備するための基本方針であり、今後の設計業務等の指針となります。

### 1-1 社会的ニーズの変化と磐梯町が目指すこと

- ・人口減少や建物の老朽化などの課題がある中で、0才から5才の子どもたちが同じ施設で共に過ごし、多様性と包摂性の中で生活できる環境をつくる
- ・今まで磐梯町の保育で大切にしてきたことを重視しつつ、これからの子どもたちの未来で必要となる自己選択・自己決定ができるような力を育む環境をつくる
- ・子育てしやすい町づくりを目指し、教育・保育の魅力により子育て世代の人口を増やす
- ・共生社会をつくろうとする人たちの、成長の土台となる教育・保育を担う

### 1-2 計画策定までの流れ

令和4年12月に出された「磐梯町教育・保育施設再編整備基本構想策定会議」の答申と令和6年2月に出された「磐梯の教育再デザイン構想委員会」の答申を受けて、「磐梯の教育」0-15教育基本構想を策定するにあたって、町民や職員とのワークショップやパブリックコメントなどを実施し意見を集めました。0才から15才の磐梯の教育の方針について話し合う中で、認定こども園の開園準備についても話し合わせ、これからの子どもたちにとってより良い環境づくりや町内の土地活用の現状等も加味しながら、認定こども園整備基本計画の作成に至っています。

## 2 前提条件の整理

### 2-1 磐梯町保育所・磐梯幼稚園・磐梯こども館・磐梯児童館の施設の現状

#### 〈磐梯町保育所〉

沿革 1983年建築（耐久年数47年）  
所在地 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字漆方1060-1  
種構造 RC  
階数 1階建  
延床面積 850㎡  
敷地面積 4910.2㎡

#### 〈磐梯幼稚園〉

沿革 1990年建築（耐久年数47年）  
※遊戯室は2015年建設  
所在地 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字小原1872番地  
種構造 RC（遊戯室は木造）  
階数 1階建  
延床面積 1060㎡（内、遊戯室489㎡）  
敷地面積 6308㎡

#### 〈児童館〉

沿革 1986年建築  
所在地 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字道割堂260  
種構造 RC  
階数 2階建  
延床面積 435.6㎡  
敷地面積 1189㎡

#### 〈こども館〉

沿革 2014年建築  
所在地 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字小原1947-1  
種構造 鉄骨造  
階数 1階建  
延床面積 388.8㎡  
敷地面積 1219.4㎡

## 2-2 保護者・町民・職員の意見

これまで、保護者・町民・職員に向けて、磐梯町0-15教育基本構想（案）に関する意見交換と合わせて、認定こども園開園準備に向けて全14回のワークショップを行ってきました。その内、開園準備に関することに特化したワークショップは4回に分けて3つのテーマで実施しましたので、以下に、参加者から出た意見を参考資料として共有いたします。

〈ワークショップで出た意見〉

### テーマ1

#### 0才から12才がまざる場所として安全安心でみんなが楽しく過ごせる環境設定とは

##### 施設について

雪国仕様で	雪に対応できるような建物であってほしい 冬に子どもたちが外に出なくても遊べるように、遊戯室と園舎と児童館をつなげてほしい
自然豊かで	となりの土地の田んぼを活用したい 森を残したまま活用、川も活用、ビオトープなどもつくりたい 小学校とこども園を繋ぐ道を森の中につくり安全に児童館に来られるようにしたい
工事中は	今の子どもたちの活動が制限されることは避けてほしい 別のところにつくることはできないのか 工事中の引越しもありか？
園庭	園庭が一番こどもが混ざり合う 遊ぶ場を選択できる（例：砂の種類が違う砂場） フラットではなくつきやまをつくる＋トラックがつくれるようにする 自然に近い環境 アスレチックみたいなものをつくる 森で遊べるような公園 テラスから出られる
ランチ	休みの日にみんなで食事ができる 給食センターを大きく
児童館	児童館へ行くにも敷地内が安全 本当にこども館で広さは足りるのか 小学校のプール跡につくるのはどうか？ こども館を子育て支援に活用したらどうか

##### 価値観等その他

保育観	異年齢保育・学年分けのクラスは廃止 イベントではなくあたりまえに異年齢交流 学年での保育はあってほしい
-----	---

保育観	それぞれが遊ぶ、生活できるスペースは確保し都度交流する どのように子どもたちをまぜるのか
保護者と教員	子どもたちにとってのベストを一緒に話していけるような関係に オープンに時間をかけて話し合っていこう
幼小連携	近くなればより連携しやすくなる
地域交流	第二小学校の子どもたちも使える 公園のような場になるように

## テーマ2

0才から5才が多様性と包摂性の中でとことんどっぷり楽しく生活するための環境設定とは

時間	時間割 カリキュラム	自分で決められる時間割 ゆるい時間割を選べる 時間配分を施設に合わせるのか子どもに合わせるのか 「時間だから…」で邪魔されない 「時間制限」をあまり設けない、タイムスケジュールにしばられすぎない 給食の時間はゆるく。自分で・年上が年下によそうなど 年齢に合わせたそれぞれの時間+0-5が共に過ごす時間 個々の時間がありながら異年齢で交わる時間があるといい
	対話・余裕	先生と親の交流・意見交換の場、時間 人と人とが話せる、やり取りできる時間、余裕 余裕がある職場である 親と先生とのコミュニケーションの時間がほしい 保護者同士の意見交換・時間がほしい
空間	具体	砂場 大きい図書館 ドロ遊び、水遊び 子どもが遊べる屋内施設（めぐプラザみたいな） 園の中にcafeがある 農園 トミカが使えるようになったほうがいい 子どもが自由に遊べる資材置き場 隠れ家もある（場がえらべる） 先生と親たちもゆっくりしゃべれる場がある
	コンセプト	日本一じゃなくていい！親や子供達、先生が幸せな環境を いつでも町の歴史にふれあえる 遊びの幅を広げたい 自然とふれあったり汚れるのを気にしない 多様な素材であそべる（レジャオ的な） 好きなことができるようになったほうがいい。 あそびがたくさんの中から選べる 暖かくてすずしい キャラクターなし抽象的なおもちゃなど

空間	コンセプト	異年齢が十分に混ざり合える なんでもできたらいいなあ 遊びながら人間性が育つ 緩まる場所
人	価値観	何度でもやり直せる、試行錯誤できる、余白、余裕 やり直せるというよりは失敗の勧めみたいな感じが欲しい 親・先生方・双方がよりリスペクトできるための努力！ 理念の共有で向かう 異年齢があたりまえにいる 同年齢学習の時は・・・ やることを自分で決められる しごと、作業を共にする（させるではなくてね） 子どもファーストで思いっきり遊ぶ うわべはいらない！ 人目を気にしない！ 親と先生が腹を割って話す イベント（活動）自ら企画できる 子どもの多様性を認めるなら大人の多様性も認めてほしい 毎日考えて過ごす子なら育つ
	先生・職員	やっぱり先生大事 現場の声を聞いてー！ どんな子どもその子を知ろうとする先生 先生たちの年齢・職歴も多様に 寛容でポジティブで子どもと一緒に保育をつくれる先生 先生のメンタルの勉強とケア 先生も本音で話してほしい 「ただいだけ」の人をちゃんと配置する 先生方も安心できる人員配置 先生がマスクを取る時間を増やしてほしい 子どもを見通した先生の声かけ
	教育行政 地域	役場の課の壁をとりはらってワンチームを目指す→総合的運営 いろいろな人がそこにいる 地域住民総参加型が理想？ 教育者と住民の方ととの風通しを良くする まずは地域の習慣・風習を知ろう！とても大事
	その他	イベントが無くなるのはさびしい 大人もイベントが思い出として覚えている いじめが多い。心が育っていない 怪我・事故の責任を取る人がいない 親は子どもに何を求めているのか？

最後に、「0才から5才が多様性と包摂性の中できっととどっぴり楽しく生活するための環境設定って？」ひとりひとり改めて書いてもらいました。

- ・子どもがやりたい事を選んで、後押ししてもらえる
- ・子どもに見守りの目がふりそそいでいる
- ・施設＝場 があること。でもその場は●●室とか決めつけなくても良いと思う
- ・その人を認める事

- ・聴く、対話、楽しむ、楽しい
- ・一人一人の意見が同じ価値で扱われて、話し合われる環境
- ・話し合い（理解）、学び・成長、共有（理念）、チャレンジ
- ・地域（人・モノ）総ぐるみ
- ・希望&夢&未来！
- ・ごはんがたべられるようにしたほうがいい。
- ・尊重できること。

### テーマ3

#### 0才から5才が安全安心な食事をするための自園給食の環境設定とは

コンセプト	楽しい	誕生日の日は例えば牛乳で乾杯できるようなユーモア 会話が弾むようなふんいき 調理場から料理の匂いが園舎内に届く 食事を通して子ども同士や大人の会話がある空間整備 楽しみにできるメニュー、子どもって意外とメニューを見ている 先生のリクエストメニューの日がある おいしい 〇〇さんちのメニューがたまに出る おいしくて色んな国や地域のメニューが味わえる
	食の 自主性 自立	安全安心 自主性も大切にしながら、先生がしっかり管理してくれる 自分の場所を自分で決められる 時間のゆとり 食事のコントロールが子ども自身でできる 子どもにも役割がある いただきますからごちそうさままで「自分が」「自分で」できる。大人はサポート 好き嫌いも大切にされる
	食育	納豆づくり とうもろこしの皮は1、2歳児でもむける 自分たちで食べる野菜を育てる→調理してもらう 地域や学校で育てた材料を使う 食をよくすると免疫力も高まる 心を育てるには食が大事 秋刀魚の食べ方 はしの使い方を楽しく知らせる工夫 色々な地域の食事が食べられる 家庭で食べないのに園で食べるという事実→苦手を食べないのはもったいないのでは？ とりあえず目の前に置く、は大事では？
	食文化	材料・食事 つくる人への感謝！ 食べられることがありがたい世界観 食事のマナー、はしの持ち方、礼儀
	環境設定	食べる量を自分で決められる 時間的余裕！ 談話機と、黙々机とか、場面設定 年長児が配膳を主体的にできる

コンセプト	環境設定	臨機応変が苦手な子には・・・？みんなが良い空間はなんだ？ スプーン、フォーク、補助のはし、はし、選べる。道具いろいろ用意 オペレーション、シンプル・かんたん！に 迎えが遅い子には小さなおにぎりなどを夕食にさわらないもの 就学時「15分で食べられるように…」と指導があった 小学校とやり方（方針）の統一！
	給食の時間	子どもがよそう。大人も見守る。 地域の大人や保護者が食事サポートのスタッフができる（面接あり、やさしい人） やりたい人が給食当番ができる どこで食べてもいい！（お庭でも）
	異年齢での食事	年齢ごとに役割、年長が年下に配膳したり 異年齢で食事がとれる（ごちゃまぜになる） 3～5才と一緒に食べれる場所 0～2才、3～5才で分ける。メニューも違うだろうから
	人と食の関わり	子どもも調理に参加できる 子どもと先生と一緒に食べれる空間 会話を楽しめる給食の時間 たまに地域の人にもまざれる給食 調理師さんとも関われる 町の人々の食堂にもなっている 食事×お誕生日 野菜とかつくっている人とも触れ合える 食物をつくってくれている人も一緒に過ごせる 作ってくれる人たちがものすごく近くにいる
具体的なこと	食材・材料	給食メニュー、絵本と関連1日を通したカリキュラム 絵本に出てくる料理こんだて 米 小麦はあまり使わない、混む日は半粉で代用してほしい 磐梯町の米、野菜、果物メインで おやつは基本手作り 水道水しんばい 牛乳も選択制に 調味料はいいものを、なるべく無添加無農薬で 熱塩加納給食を参考にしてほしい 磐梯町の農家さんと契約して安全な野菜・米を提供 こんだての立て方、食材の選別を子どもファーストで。お金ではなく。 磐梯で取れる食材で作る給食 畑で野菜を育てて食べる（色々な野菜に触れる機会をつくりたい）→給食で出た時に興味を持ちやすくなる 季節のものを食べ、食材に興味を持てるような事をする 調味料の質を良くする 大人の都合を入れない。子どもの健康を第一に考える。 自分の米をつくる！！たがやすところから
	アレルギー	アレルギー児童も安全かつ、みんなと同じ楽しさを味わえる工夫 アレルギー児の把握と、誤食が起きない為の対策、環境設定 離乳食の子どもは、保護者との情報交換を密にすることで、食事の成長を促したい

具体的なこと	メニュー 食事内容	子どもに合わせた食事の量（選べる） 食べられる量、食べられるもの、食べられないもの、を選べる MAXの量・数は決める 子どもたちの好きなメニューをリクエストしてもらおう（給食の時間が楽しみになるように！） 食べたい献立をリクエストできる！ 自分でよそってもいいし、分けてある（小鉢）ものを取って食べてもいい
	施設の 活用	給食費は無償にせず、質を上げる たまーに子ども食堂と化す！（月1回位、夕方とかに） 調理場の中が見える、ガラス張り。子どもも大人も作ってくれているところがわかる、楽しみ
	おやつ について	おやつも手作り 好きな時に食べられるようにする?? ランチだけでなくおやつ作りができる。自分で作って食べる
	リスク 管理＝ 衛生環 境＋安 全	安全安心。食中毒対策がしっかりされている。 安全。先生がしっかり見ていてくれる。 衛生環境はどうだといいな？ 安全安心、食事の様子を親とも連携共有できる 大切にされるのは約束よりもおいしい楽しい
	食器	会津の漆器を使った食事 食器が楽しい・・・？ 安全 年齢に合った食器、カトラリーなど レストラン形式の日がある、ナイフ&フォーク
	空間	色んな椅子やテーブルがある

#### 幼稚園と保育所の職員による意見

コンセプト	おいしい給食なら文句なし！尚、安く仕上げしてほしい 安心安全が第一！
アイデア	色々な食材にふれられてこそ給食 年齢問わず食育にかかわる（例）とうもろこしの皮剥き、枝から豆をもぐなど 野菜づくりをとして好き嫌いをなくす アレルギーの子は除去食、それ以外の子は小麦や牛乳も使ったおいしい食事がいいと思う 地産地消というわりにはすべての食材をそろえるのは不可能だということ 年齢に合った食器や食具を！ 磐梯町の野菜を取り入れてほしい。旬のおいしいものが食べられる
施設	調理室の中の様子が見える 調理室を一段下げて子どもが中を見やすいように 調理室の様子が見え、子どもとの会話もできるといいなあ 一人一人の食べられる量を知るために離乳食以外はカフェテリア形式にする 行事はみんなで会食はありだが、基本的にはクラスごとでよいと思う。0-2歳児の会食はなかなか難しい。子どもの育ちとその時の状況にもよるが、無理にみんなで食べようとしなくてもいいのでは？こども園の予定地が狭そうなので、無理にランチルームを作らず保育室の広さを充実させたい。

施設	<p>調乳室の確保 検収室、下処理室、調理など区分してほしい 食中毒予防の為にも空調、調理室ないの温度管理は必須！ 衛生区域と非衛生区域がはっきりとしている。しっかり区別されている。 保育士と調理従事者が使用するトイレは完全に別で。 給食室の面積の確保、作りやすい環境が必要。こども園予定地の面積が狭く感じるので心配 離乳食から幼児食を提供する時間がバラバラなので、配膳と下膳のカウンターを別にしてほしい。今は配膳中に離乳の下膳されたものを手渡しで受け取っている。</p>
----	--

### 3 整備基本方針と概要

#### 3-1 建築計画・施設計画における基本方針

- ・ 0才から5才の子どもたちが多様性と包摂性の中でとことんどっぷり楽しく生活することができる
- ・ 0才から5才の子どもたちが安全安心な食事を楽しく自立にむけてとることができる
- ・ 0才から12才の子どもたちが過ごすエリアとして、安全に遊びを通して混ざり合うことができる
- ・ 子どもたちの成長に関わる大人たちも多様性と包摂性の中で楽しく働くことができる

#### 3-2 計画敷地について（磐梯幼稚園の敷地での整備）

##### 1) 候補地選定の経緯と検討事項

これまで、磐梯幼稚園の園舎をリフォームするなどして認定こども園として開園することも検討して参りましたが、リフォーム工事による現在通園している児童の負担が大きくなることを考え、新築か増築かで0歳から5歳が共に過ごすことのできる園舎を建てる方向になりました。

磐梯町全体の現在の土地の整備状況や、磐梯幼稚園の遊戯室が設置されて10年未満であることなどを鑑み、磐梯幼稚園の敷地内に、現在の遊戯室を活用する形で園舎を増築する方向で検討していきます。また、児童館の老朽化や登録希望者の増加、小学校から徒歩10分程度かかってしまうことなどの課題もあり、認定こども園の開園に伴って空くこととなる、磐梯町こども館と幼稚園園舎を、児童館や子育て支援センター、図書室などとして積極的に活用していく方向で検討していきます。

##### 2) 磐梯の子どもたちが混ざり合い、地域の方々との交流が生まれる場所の確保

現在、磐梯町には小学校が2校存在しますが、放課後の遊び場でもある児童館には、両校の児童が集まります。そこで、磐梯幼稚園のエリアを放課後に0歳から12歳がまざる場所として安心安全に過ごせる環境を整え、認定こども園や児童館に通っていない子どもや地域住民も立ち寄りたくなるようなエリアになることも目指します。

また、磐梯第一小学校と磐梯幼稚園の間にある田んぼや畑のあるエリアも、現状を大きく変えずに、子どもたちが遊んだり自然体験活動を行えたりすることができるように、地域住民と共に話し合いながら検討を進めていきます。

### 3-3 予定施設概要

#### 【園舎】

延床面積：900㎡程度

園舎階数：2階以下

主体構造：RC造・鉄骨造・木造又はそれらの複合構造等

想定定員：125名

内訳：0・1歳児…30名

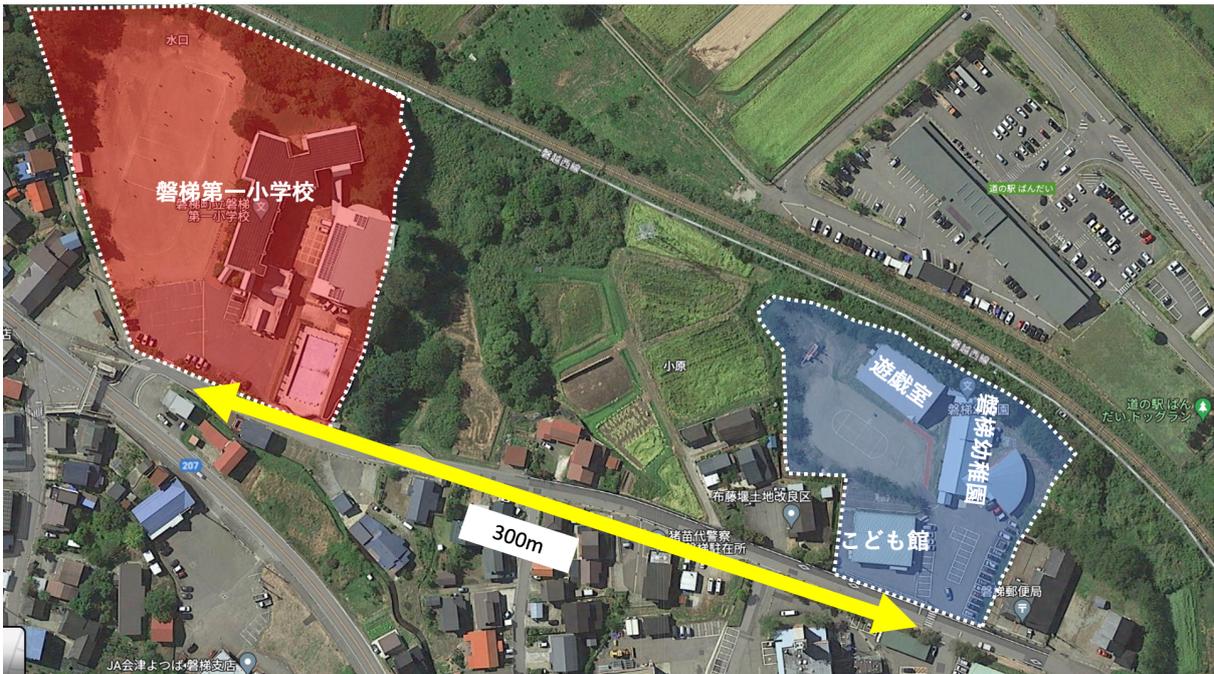
2歳児…20名

3歳児…25名

4歳児…25名

5歳児…25名

※ 遊戯室については、現在の磐梯幼稚園の遊戯室を活用する。



磐梯幼稚園 遊戯室 裏出入口側



裏出入口とスロープ

## 4 建築計画・施設計画

3 整備基本方針を実現するための、建築計画と施設計画として、園舎や敷地の整備内容や参考配置図について以下に整理します。

### 4-1 整備内容

#### 1) 施設整備に向けた基本的事項

- ・ 教室や園庭、遊戯室などに子どもたちが行き来しやすい動線を考えた施設整備をする。
- ・ 雪国対応のされた施設整備をする。
- ・ 自然体験などがしやすく、多様な遊びにアクセスしやすい環境整備をする。
- ・ 調理室で給食を調理する人や食材などが子どもたちにも見える環境整備をする。
- ・ 駐車場から園舎までの動線の環境整備をする。
- ・ バリアフリー化された施設にする。

#### 2) 施設整備内容

##### 園舎内の整備内容案

保育室 乳児室 ほふく室 保育室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児の健やかな生活の場として、明るく、広い面積で整備</li> <li>・ 年齢の違う園児が自然とまざり合うことができるつくり</li> <li>・ 0 1 2 歳児と 3 4 5 歳児それぞれが発達に合った環境で過ごせるようにするが、互いに共に過ごしていることが意識できる環境を整備する</li> </ul>
沐浴室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沐浴からおむつ替えまでがスムーズに行うことができるつくり</li> <li>・ 沐浴室から保育室が見渡せるようなつくり</li> </ul>
調乳スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育室との行き来がしやすいつくり</li> </ul>
調理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調理している姿が園児にも見えるように整備する</li> <li>・ 配膳がしやすい位置に整備する</li> <li>・ 調理体験ができる設備を備える</li> </ul>
職員室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭・玄関・保育室がなるべく見える位置に整備する</li> <li>・ 重要書類保管用金庫や書庫を設置する</li> <li>・ 作業スペースと共に職員同士の対話が生まれやすい環境も整備する</li> </ul>
保健室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員室付近に設置する</li> </ul>
玄関ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪天候の際にも出入りがスムーズにできるように整備する</li> </ul>
ミーティングルーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議室・相談室・応接室を兼ねられるようなつくりとする</li> <li>・ プライバシーを確保できるように整備する</li> </ul>
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児用（乳児・幼児別）、職員用、来客用、だれでもトイレを設置する</li> </ul>
シャワー室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレに近く、浴槽付きにする</li> </ul>
休憩室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休憩や着替えなどができ、ロッカーが置けるように設置する</li> </ul>

### 園舎外の整備内容案

園庭	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育室から直接出ることができ外からも中の活動が見えるつくりにする</li><li>・3 4 5歳が同時に活動ができる環境設定にする</li><li>・自然に触れることができ、園児が自ら遊びを見つけることができる園庭</li></ul>
遊具	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然環境を生かした遊具にする</li><li>・体力づくりやいろいろな遊びが生まれるシンプルな遊具にする</li></ul>
駐車場からエン トランスまで	<ul style="list-style-type: none"><li>・駐車場から園舎までお迎えや来訪などの際に歩きやすく整備</li></ul>

### 3) 設計時における配慮事項

工事の際に、在園中の児童の遊びが大きく制限されないような作業動線の確保と工夫

雪や雨が降った際の駐車場から園舎までのお迎えの動線の工夫

遊戯室と新園舎の行き来がスムーズにできる工夫

調理室で調理している様子や材料等が子どもたちにも見える工夫

園庭が極度に狭くならず可能な限り1000㎡以上の広さが確保される工夫



## 5 施設整備計画（案）

	令和6年度									令和7年度									令和8年度									令和9年度																	
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
基本計画																																													
指名競争入札																																													
基本設計																																													
国庫補助申請																																													
実施設計																																													
建築工事																																													
開園準備																																													開園（予定）
町民ワークショップ																																													
開園準備検討委員会																																													開園（予定）

※基本設計や実施設計の設計業者が決定後も、開園準備検討委員会や町民ワークショップでの話し合いを継続します。その際には、設計業者にも関わっていただくことを強く望みます。

## 6 参考資料

### 1) 職員配置基準

	国基準 (児童数：職員数)
0歳児	3：1
1歳児	6：1
2歳児	6：1
3歳児	15：1
4歳児	25：1
5歳児	25：1

参考) 幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準の一部を改正する命令等の施行について(通知)より

### 2) 現在の配置人数

#### 磐梯町保育所

	園児数	担当者数
0歳児	7	3
1歳児	13	4
2歳児	12	3

#### 職員

所長1名・副所長1名・保育士9名・代替職員3名・看護師1名・給食職員4名 全19名

#### 磐梯幼稚園

	園児数	クラス数	担当者数
年少	23	2	3
年中	15	1	3
年長	28	2	3

#### 職員

園長1名・副園長1名・支援員4名・用務員1名 全14名

### 3) 規模算定基準

#### 〈園舎〉

	一人当たりの基準面積	学級数当たりの基準面積
0歳児	3.3㎡	—
1歳児	3.3㎡	—
2歳児	1.98㎡	—
3歳児以上 (3クラス以上の予定)	—	320㎡に学級数から2を減じて得た数に100㎡を乗じて得た面積を加えて得た面積

#### 〈屋外遊技場〉

2歳以上3歳未満の子どもの数に3.3㎡を乗じて得た面積に、次の表の上欄に掲げる学級数の区分に応じ、400㎡を加えて得た面積

参考) 福島県認定こども園の要件を定める条例